

ターナー新首相 横顔と政策

ジョン・ターナー氏がカナダの第十七代目の首相に就任した。かつてトルドー政権のもとで法務大臣兼検事総長や大蔵大臣をつとめ、自由党の「ゴールドン・ボーイ」といわれながら、一九七五年、突如同内閣を辞任して野に下ってから、九年目の復活である。

党首選には八人が立候補。ターナー氏を除くあとの七人は、すべてトルドー内閣の現閣僚で、しかも現職の議員でないのはターナー氏だけ。六月十六日に行なわれた選挙では、一回目の投票でターナー氏が一位（二位はクレチエン・エネルギー大臣）となったが、過半数に達しなかったため、上位三人による決戦投票となった。二回目の投票でターナー氏が五四パーセントを獲得、党首に選ばれた。その二週間後の六月三十日、トルドー氏が首相を辞任するとともに、ターナー政権が発足した。

新政権の陣容は、トルドー前内閣をほとんどそのまま引き継いだ形になっている。トルドー内閣三十七人のうち十三人は退任、新たに五人の新顔が加わって、閣僚の数は八人減の二十九人。数人の閣僚は、いくつかのポストを兼任している（別表）。ターナー氏は、一九二九年六月七日、英国で生まれた。ジャーナリストだった

父親はターナー氏が幼少のころに死亡、母親はターナー氏と妹のブレンダさんをつれてカナダに帰る。

カナダで彼は、第二次大戦時のマッケンジー・キング政権のもとで重要な官僚ポストを歴任した母親の手で、将来大物になるべく育てられた。母親は一九四五年にバンクーバーの企業家フランク・ロ



勝利を喜ぶターナー新首相とジル夫人。

ス氏と再婚する。それによって、ターナー家は政財界とのつながりができた。当時ターナー氏は、まだ十代ながら政治の世界に強く魅せられていたという。

ブリティッシュ・コロンビア大学で政治学を勉強したあと、ロース奨学金を得てオックスフォード大学で法学と民法を学ぶ。一年間パリでフランス語を磨いたあと、カナダに戻って法学の勉強を続け、弁護士資格を取得。

当時から好男子で、一九五八年にフランク・ロス氏がマーガレット王女のために開いたパーティーで彼女と踊ったことから、ロマンスの噂が流れ、ターナー神話が生まれた。六二年には下院議員に初当選、三年後に再選されたときは早くも閣僚に選ばれている。

六八年の自由党党首選ではトルドー氏に敗れたが、トルドー政権のもとで消費者・企業問題大臣、検事総長兼法務大臣、そして七二年には大蔵大臣に就任した。しかし、ターナー氏は、トルドー首相の後任といわれながら、七五年、突然蔵相を辞任する。原因は、トルドー首相との経済政策をめぐる意見のくい違いとも、性格の不一致ともいわれる。

野に下ったターナー氏は、以来、トロントで企業弁護士として活躍。ベクテル・カナダ、シーグラムなど、およそ十社の役員でもあった。（これらは、首相就任とともに辞任した。）

ターナー新首相は、まだ具体的な施政方針を明らかにしていないが、党首選のときの発言では、失業対策と対外政策を最重要目標に掲げるとともに、次のような見解を表明している。

一、貿易 政府が積極的にでていって、輸出市場を開拓する。公正かつ自由な買

トルドー前首相に平和賞

東西対話の再開や核軍縮などを訴え続けてきたトルドー（前）首相に、一九八四年度アルバート・アインシュタイン国際平和賞（五万ドル）が贈られることが決まった。授与式は十一月三日、ワシントンで行なわれる。

アインシュタイン国際平和賞は、核時代における戦争の恐ろしさを訴えた故アインシュタイン博士の遺志をいかして、個人の平和努力への業績を評価し、また今後の努力を奨励するために贈られるもので、これまでに、ジョージ・ケナン元駐ソ米国大使、ロバート・マクナマラ元米国防大臣、シカゴのジョセフ・バナーディン大司教などが受賞している。

平和・安全保障研究所 カナダ政府が設立へ

国防や軍備制限、軍備縮小など、世界平和に関する諸問題について国民の論議を深めるため、カナダ政府は国際平和・安全保障研究所を設立することになった。

これはトルドー前首相が昨年末から今年初めにかけて世界各国の指導者に対して行なった平和提言を受けたもので、平和や安全保障に関する問題について国民の知識を高め、また論議を活発にするのが目的。